海外情報

ロイヤル・ウインター・フェア／北米視察報告

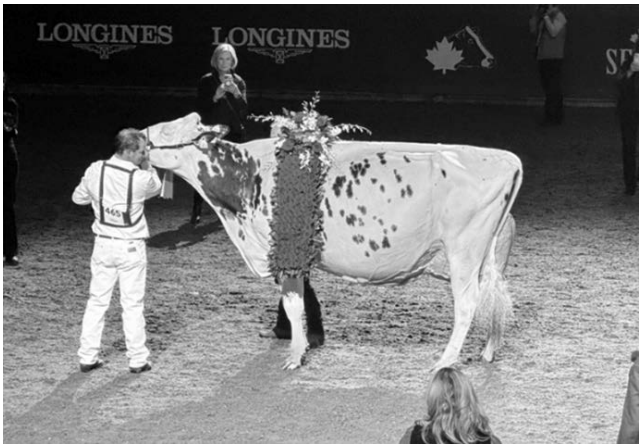
十勝種雄牛センター　百瀬　廉
盛岡種雄牛センター　平松　汐理
前橋種雄牛センター　杉本　優香

1．Royal Agricultural Winter Fair 2023

昨年11月９～10日に、ロイヤル アグリカルチャー ウインター フェア 2023を視察しました。初日は、レッド＆ホワイトホルスタインショウ及びブラック＆ホワイトホルスタインショウの未経産の部が開催されました。

「ブラック&ホワイト未経産の部」では、241頭が出品され、JIM BUTLER牧場所有のLEHOUX VICTOR TOPAGE（父：ビクター）がジュニアチャンピオンに輝きました。リザーブジュニアチャンピオンはPETITCLEC LAMBD ANNY（父：デルタラムダ）でした。この２頭は肋の開張と体の深さがずば抜けており、体高・体長も未経産とは思えないパワフルな構造をしていたのが印象的でした。

２日目の**「ブラック＆ホワイトホルスタインショウ経産の部」**では、193頭が出品され、Ferme Jacobs所有のERBACRES SNAPPLE SHAKIRA-ET（父：オーカリバー）が、先のWorld Dairy Expoに続いて、グランドチャンピオンを獲得しました。昨年度のExpoのグランドチャンピオンでもある本牛が、全米



で最も有名なホルスタインとなった瞬間でした。本牛は、今年の４月に５産目となる分娩をし、８歳ながら乳房底面の高さや肋複の幅に非常に優れ、彼女の歩様は審査講評でも絶賛され、リザーブグランドチャンピオンとの圧倒的な差が説明されました。

「生涯生産70,000kg以上の部」ではLOYALYN GOLDWYN JUNEがクラスチャンピオンを獲得しており、本牛は17歳９産目という驚異的な成績を持っています。本牛は、過去にも多くの賞を獲得しており、現在までしっかりと維持された体型や乳器の資質の良さ等、日本国内ではなかなか出会えないハイレベルの名牛だと思いました。

「ロイヤル　アグリカルチャー　ウインター　フェア」を視察して、酪農畜産業界ではない一般の方や、子供が来ていたことにとても驚きました。特に、多くの子供たちが牛、豚、羊、ウサギ、アルパカ、犬などの動物や家畜と触れ合うことができ、畜産業を身近に学べる機会があること、食育を重要視していることに日本との違いを感じました。子供たちのこのような機会、体験が将来の畜産業の発展に寄与するのではないかと思いました。**「ホルスタインショウ」**は、これまでに経験してきた地域の共進会とは大きなレベルの違

いを感じ、レッドだけでショウが成り立つことにも驚きました。また、未経産牛で一つの部に50～60頭並ぶ様子は圧巻でした。審査においては、体のサイズや体高は中程度で、肢蹄の良さ、肋の張り、歩様の正確さが特に重要視されており、ただ発育に優れているだけでなく、バランスが重要視されていることが分かりました。

２．牧場視察

今回、アメリカ、カナダあわせて５戸の牧場を訪問しました。

(1) チャフィーファーム

【牧場概要】
搾乳牛：1,300頭
305日乳量：13,200kg、Fat：4.10%、Pro：3.10%
飼養形態：フリーストール

概要：オーナーのコーリー氏の父が1947年に経営を開始。G評価を活用して、上位牛には雌選別精液のみを授精、下位の牛には肉用牛（アンガス）を授精もしくはIVFを移植しています。種雄牛の選定基準は健康指数と、フリーストールで活躍できる肢蹄の強さ、乳器、長命性を重視しており、牛群の近交係数は約９％ですが、近交回避よりも改良スピードを重視して種雄牛を選定する方針でした。

(2) オーロラリッジデイリー

【牧場概要】
搾乳牛：2,650頭
305日乳量：13,760kg、Fat：4.04%、Pro：3.15%
飼養形態：フリーストール
※JP3H61137ハイプレシャスの繁殖者

概要：40年前に65頭からスタートし、すべて登録牛で、耳片採取にて全頭G評価を実施しています。３～４週間でG評価の結果がアプリにて届く（ペーパーレス）ため、オーナーのデーブ氏は毎週月曜日にアプリでG評価や、牛群全体のG評価推移を確認しています。トップ牛はGTPI 3,240、タイプ1.65。G評価上位の75頭をドナーにし、２週間ごとに16～18頭の採卵（OPU）を行い、受精卵は毎日30～40頭に移植しています。デーブ氏はOPUについて２週間ごとに採卵を行えるので世代間隔の短縮にメリットを感じており「この前、遺伝子検査したOPU-IVFでうまれた子牛の母牛はまだ17か月だった」と笑っていました。

IVF生産は、雌選別精液と通常精液をそれぞれ50％の割合で利用し、IVF生産を行うときは、母牛G評価をみてハプロタイプ保有同士の交配を避けていました。

(3) ワードウェイファーム

【牧場概要】
搾乳牛：87頭
305日乳量：12,016kg、Fat：4.25%、Pro：3.20%
飼養形態：フリーストール

概要：本牧場は、３回搾乳で12頭ダブルのパラレルパーラーで、搾乳牛87頭は、ほぼ１時間で搾乳が終わります。その他に、520エーカーの圃場があり、麦、アルファルファ、コーン、大豆の生産をほぼ家族のみで行っていました。

バランスの良い改良を心がけており、体型指数10以上、乳量1,200kg以上、長命性指数105以上の種雄牛の中から種雄牛を３頭選定し１年間交配していました。G評価で上位50％の未経産牛・経産牛には雌選別精液を利用し、下位50％牛にはF１生産用としてブラックアンガスを交配をしていました。F１産子は生後７日で肥育農家に600-700ドル（平均価格）で販売していました。また、F１生産用のブラックアンガスが選別精液であったことに驚きました。

牧場では近所の牧場から預託牛も引き受けており、

妊娠した16か月齢牛を分娩前まで預かっています。この預託料が副収入となっているようでした。

牧場内は粘土質に近い粒子が非常に細かい砂をふんだんに使用しており、細菌やウイルスが繁殖しにくいので非常に衛生的で、においも少なく、牛にとってもストレスが少ない環境でした。そのためか、牧場の体細胞数は10万以下で、乳房炎になる牛は年に１頭以下とのことでした。

(4) ラレンウッドファーム

【牧場概要】
搾乳牛：120頭
305日乳量：14,000kg、Fat：4.2%、Pro：3.3%
飼養形態：フリーストール

概要：現オーナーのクリス氏で150年前から６代続く牧場で、敷地は700エーカー。従業員はパートタイム12人。敷地内に自宅やプールがあり、この牧場も一つの村のように広大でした。

フリーストールの10頭ダブルパラレルパーラーで、１日２回搾乳ですが、12月から３回搾乳へ変更したそうです。理由は、乳量の増加、牛の健康（乳房炎を減らす）、ストレス軽減のため。難点は人。労働時間が長くなり、シフト制になるためパートを増やさないといけないことが大変とのことでした。

G評価上位の牛は採卵し、OPU-IVFを生産していますが、採卵が多いためレシピエントが足りない状態のようでした。種雄牛の選定は、タイプが良く、健康で能力が高いなどバランスよく改良できる牛を選んでおり、特に乳器、歩様が良いことを重視していました。娘牛は、少なくとも母牛より改良された牛になるよう心掛けて改良を進めているようでした。

体細胞数は５万以下と優秀で、ほかの牛にストレスをかけないように、発情の牛を隔離し、環境を一定に保つことに注力していました。

(5) ボスデールファーム

【牧場概要】
搾乳牛：200頭
305日乳量：12,500kg、Fat：4.2%、Pro：3.2%
飼養形態：65頭繋ぎ、135頭ロボット搾乳：3台

概要：オランダからカナダに移住し、1985年に創業しました。約730ha（1,800エーカー）でコーンや大豆、麦、アルファルファを栽培。搾乳はつなぎ牛舎は２回、ロボット牛舎は平均で2.8回。

G評価は全体の５％程度のみで、EXは85頭もいました。非常に体型に優れた牛が多く、特につなぎ牛舎ではどの牛も長命で、非常に若々しい牛が多かったのが印象的でした。

牧場は非常にきれいで、敷料は砂。つなぎ牛舎は敷料が乾いておりにおいも少なく非常に衛生的でした。外には育成舎があり、日当たりが良く敷料も乾燥しておりストレスの少ない環境が整えられていました。

種雄牛の選定で（改良で）気を付けているポイントは乳器、肢蹄、乳用強健性、乳脂量が＋であることで、現在利用している種雄牛は検定済みが中心とのことでした。

牧場訪問のまとめ

酪農家の視察では様々な経営体系を見ることができました。特に、ニューヨーク州のオーロラリッジデイリーは、すべての牛のG評価を行い、牧場主が毎週月曜日にG評価の結果や牛群の状態を確認し、採卵・授精作業を行っており、G評価が体系的に牧場経営に活かされていることが理解できました。また、G評価の申し込みも非常に簡単で、耳標をアプリで読み取り、耳片を送るだけでデータの入力は一切必要ありません。結果はスマートフォンのアプリで確認できるため、ペーパーレスで農家の負担がとても少ないこと、結果は３～４週間で届くことなど、農家にとってG評価が非常に便利で身近なツールになっていると感じました。また、一つの企業がG評価からIVFの採卵まで一貫して行っており農家にとっては、利便性が非常に高いことなど、企業と農家の相互利益が高いことが日本とはかなり違うと感じました。

視察したほかの牧場についても、規模や牧場内の衛生環境において、いかに牛にストレスを与えることなく牛の健康を維持できるかという点にお金と時間をかけていることが感じられました。

国内情報

令和５年度乳用牛群検定における優秀検定員の表彰

乳用牛群検定の優秀検定員表彰式が、２月14日に東京都、26日に福岡市、28日に札幌市で、それぞれ行われました。

これは乳用牛群検定全国協議会が平成元年度から毎年行っているもので、長年にわたり牛群検定の第一線で普及促進に携わり、貢献された検定員の方を各都道府県の推薦により表彰しています。

本年度の受賞者は表の24名の方々です。受賞者のみなさまに心よりお祝い申し上げ、あわせて今後ますますのご活躍をご祈念申し上げます。

写真　葛巻町牛群改良検定組合 八幡 櫻 氏（右）と
乳用牛群検定全国協議会 寺脇会長

表　令和5年度 優秀検定員受賞者名簿

計24名

ブロック	受賞者氏名（敬称略）	都道府県又は地区	所属
北海道	金子　政和	空知	いわみざわ農協乳牛検定組合
	廣島　航太	日高	浦河町乳牛検定組合
	藤内　誠	十勝	士幌町乳牛検定組合
	亀山　大輔	十勝	芽室町乳牛検定組合
	鳴川　昌侑	釧路	標茶町乳牛検定組合
	小椋　守	釧路	浜中町乳牛検定組合
	及川　清志	根室	道東あさひ農業協同組合
	久保　祐一	根室	中春別乳牛検定組合
	大久保　陽一	網走	訓子府町乳牛検定組合
	三浦　京子	網走	北オホーツク農業協同組合
	会津　秀彦	宗谷	東宗谷農業協同組合
東北	八幡　櫻	岩手県	葛巻町牛群改良検定組合
	佐野　洸太	宮城県	県北乳用牛群改良組合
関東	佐藤　正彦	栃木県	栃木県牛群検定組合
	人見　正春	栃木県	黒磯牛群検定組合
	萩原　紳太郎	群馬県	赤城酪連乳牛能力検定組合
近畿	小島　秀和	滋賀県	レーク滋賀農業協同組合
中四国	林　浩一	鳥取県	鳥取県酪農ヘルパー事業組合
	仲岡　修司	広島県	広島県酪農業協同組合
	龍山　義司	愛媛県	東宇和農業協同組合
九州沖縄	古川　由彦	長崎県	長崎県央乳用牛群改良検定組合
	井元　隆太朗	大分県	大分県酪農業協同組合
	川畑　泰宏	宮崎県	宮崎県乳用牛群検定組合
	古川　里枝	鹿児島県	鹿児島県乳用牛群検定組合（大隅地区）

（情報分析センター　青沼　実穂）